

正しく動き、美しくつながり、強く創り出す「未来を生き抜く力」を育成する学校



「たい」のあられる時津小

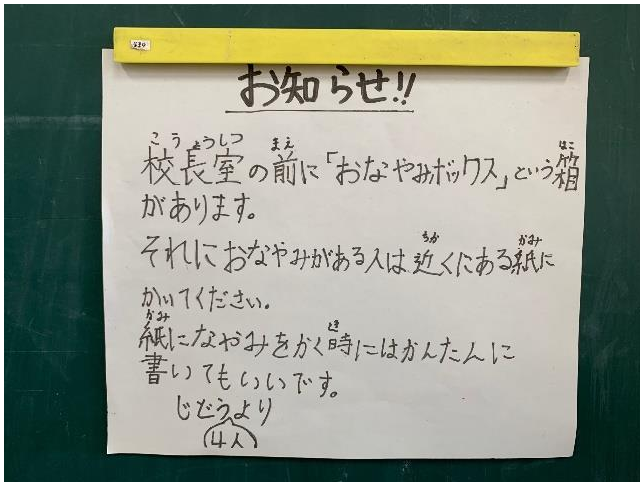


↑こちらからも↑

令和6年2月13日（火） 発行人：校長 森内 秀学

「子どもお悩み相談所（仮称）」 始動！

出張に出かけた職員の代わりに授業に行くと、後ろの黒板に、こんなものがありました。



そうです。本紙の1月18日号でお知らせした「子どもお悩み相談所（仮称）」開設に伴うお知らせです。聞けば、担当の子どもたちが学級にやってきて、このチラシを見せながら説明したのだそうです。つい先日、「校長先生も宣伝活動を手伝ってください」と頼みに来ていたのに、いつの間にか、とっくに自分たちでやり遂げていました。

また、給食の時にも校内放送を使ってこのことを宣伝していたのですから、素晴らしいバイタリティーです。

このバイタリティーの塊である子どもたちは、「おなやみボックス」に写真を貼られた右の4人。みんな4年生です。箱の上の方には、「Cozy Room」の看板の写真が貼られています。「自分たちもスタッフの一員だ」という自覚の表れでしょう。



その右側には、アンケート用紙の入った小さな箱が…。

見るとそこには、簡単な悩みを書き込む欄とともに、相談する時間帯を書き込む欄がありました（左）。しかも、振り仮名までつけて。この、自分たちの都合に合わせてもらうのではなく、相手の都合に合わせてようとする姿勢が素晴らしいと思います。心から、相手に寄り添おうとしているのです。

後日、スタッフの子どもたちに、「もう相談には乗ったの？」と尋ねました。すると、「はい！解決したかどうかは分からないけど、話をしてスッキリしたって感じでした。」と笑顔で答えてくれました。その顔は、もう立派なカウンセラーでした。

子どもって、いろんな可能性をもっています。だからこそ、活躍の場を与え、それを伸ばすのが、学校の役目です。時津小には、「強く創り出す」子どもが育ちつつあります。

